

2023年度未就業調査集計結果

目的： 長野県ナースセンターに登録している看護職および各種相談事業参加者などの就業実態を把握し、看護職の再就職と就業の継続を促進する

対象： eナースセンターの求職登録者のうち長野県内への就業を希望し、就職活動を行っている者(2020年4月1日から2023年3月31日登録者 337名)及び福祉の職場説明会・看護職のための福祉の職場相談会・巡回相談・週イチ相談等の参加者でeナース登録のない者(50名)計387名

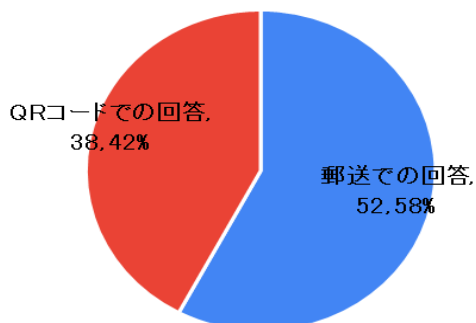
期間： 2023年8月1日から2023年9月30日

方法： 対象者に自記式質問調査票を郵送配付、郵送による回答とQRコードによる回答を集計した

1.回収状況

387名に郵送したが宛先不明のため6名返戻あり、連絡つかず381名を対象とした。

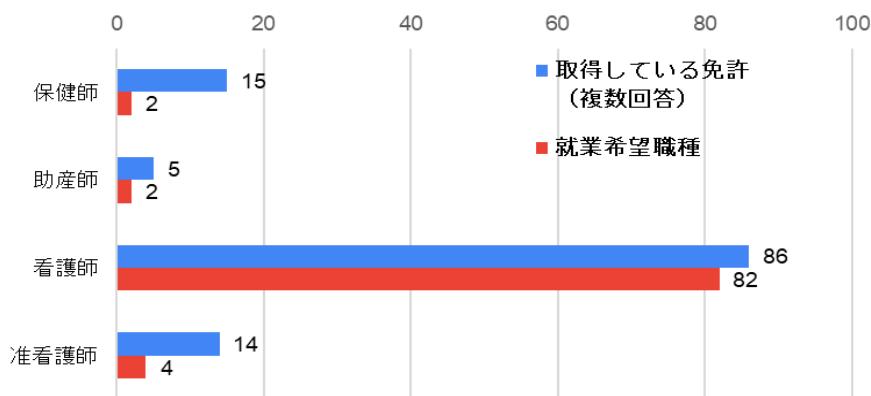
	2022年度		2023年度	
郵送での回答	41	48.2%	52	57.8%
QRコードでの回答	44	51.8%	38	42.2%
回答数合計	85	100.0%	90	100.0%



2022年度の回収率は、対象者331名で回答者85名の25.7%であった。2023年度の回収率は、対象者381名で回答者90名の23.6%と回収率は低い。回答方法については、2022年度郵送での回答とQRコードでの回答はほぼ半々であったが、今回は、郵送での回答が増えていた。

2.保有している資格(複数回答)と就業を希望している職種

	保有している資格(複数回答)	就業希望職種
保健師	15	2
助産師	5	2
看護師	86	82
准看護師	14	4

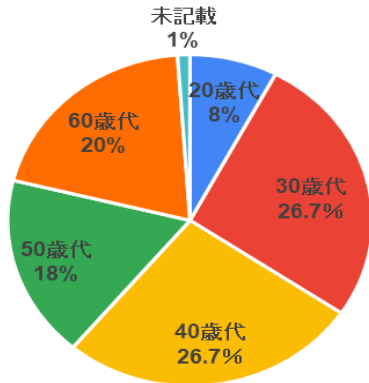
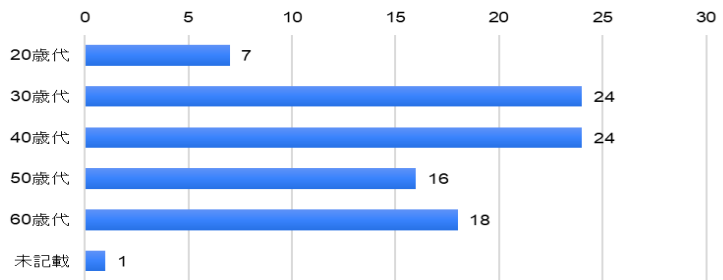


保健師職種を取得している看護職は15人いたが、保健師としての就労希望は2名であった。助産師職種を取得している看護職は5名で、2名が助産師としての就労希望であった。看護師資格のみの取得者は、すべて看護師での就労を希望していた。准看護師については、看護師資格取得者は看護師での就労を希望していた。4名は准看護師のみの資格取得者であった。

3.年齢

年代	人数	割合
20歳代	7	7.8%
30歳代	24	26.7%
40歳代	24	26.7%
50歳代	16	17.8%
60歳代	18	20.0%
未記載	1	1.1%
合計	90	100.0%

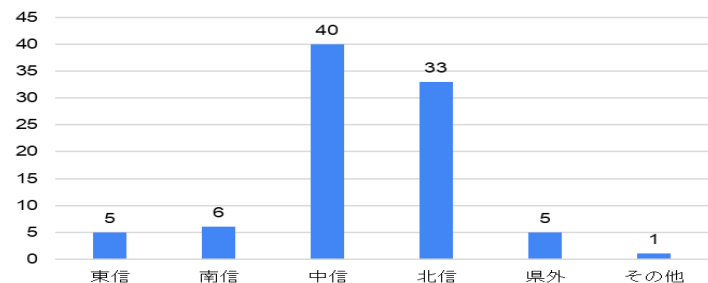
平均 46.5歳
標準偏差 11.6



年齢は、24歳から67歳で、30歳代と40歳代が最も多く24名(26.7%)であった。平均年齢は46.5歳で、標準偏差は11.6であった。昨年は20歳代での回答者はいなかったが、今年度は7名であった。昨年と平均年齢、標準偏差に大きな違いはなかった。

4.所在地

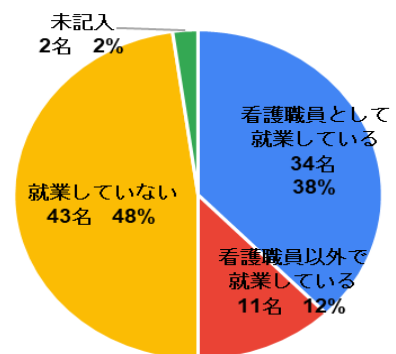
	人数	割合
東信	5	5.6%
南信	6	6.7%
中信	40	44.4%
北信	33	36.7%
県外	5	5.6%
その他	1	1.1%
合計	90	100.0%



所在地で最も多かったのは中信地区で40名(44.4%)であった。次いで北信地区33名(36.7%)であった。

5.現在の就業状況

	人数	割合
看護職員として就業している	34	37.8%
看護職員以外で就業している	11	12.2%
就業していない	43	47.8%
未記入	2	2.2%
合計	90	100.0%

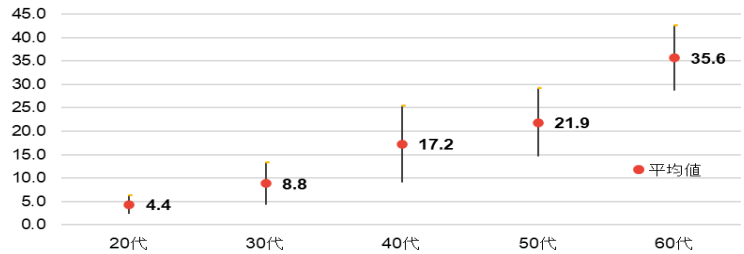


現在の就業状況は、看護職として就業している方は、34名(38%)で、就業していない方は43名(48%)と最も多く、看護職以外で就業中の11名(12%)を合わせると、看護職で就業していない方は54名(60%)であった

6.看護職としての経験年数

	平均勤務年数	標準偏差
20代	4.4	1.99
30代	8.8	4.51
40代	17.2	8.17
50代	21.9	7.24
60代	35.6	6.93

未記入 2名



年齢を重ねるにつれ平均勤務年数は長くなっている。標準偏差は、40代が最も大きく、次いで50代、60代となっている。30代より標準偏差に差が生じてきており、看護職を一度退く方が増えてきていることが推測される。

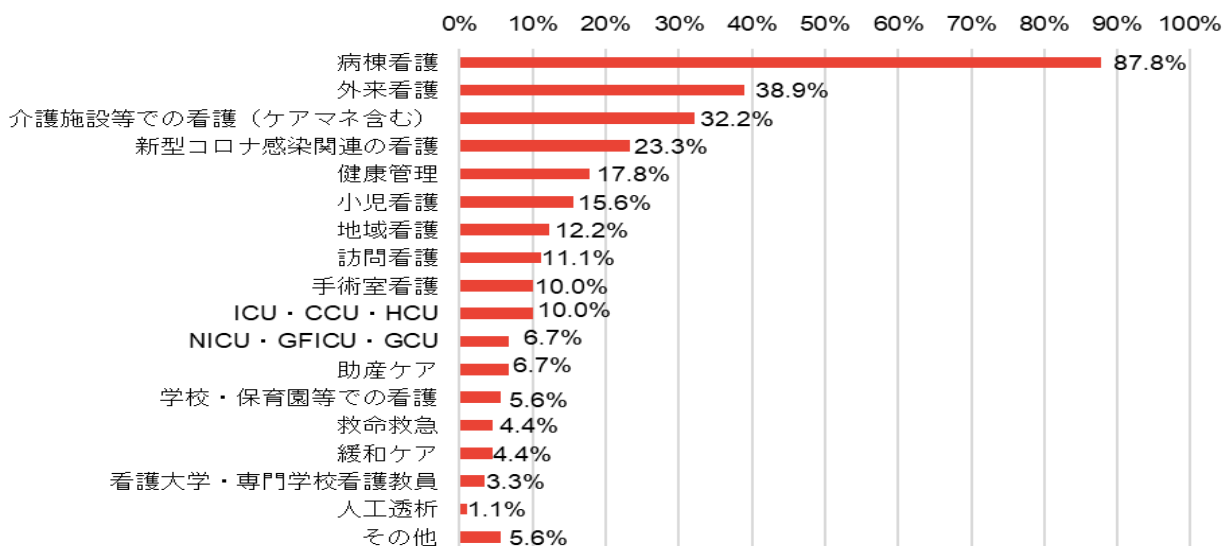
7.看護職として看護経験がある看護領域(複数回答 n=90)

看護領域	人数	割合
病棟看護	79	87.8%
外来看護	35	38.9%
介護施設等での看護(ケアマネ含む)	29	32.2%
新型コロナ感染関連の看護	21	23.3%
健康管理	16	17.8%
小児看護	14	15.6%
地域看護	11	12.2%
訪問看護	10	11.1%
手術室看護	9	10.0%
ICU・CCU・HCU	9	10.0%
NICU・GFICU・GCU	6	6.7%
助産ケア	6	6.7%
学校・保育園等での看護	5	5.6%
救命救急	4	4.4%
緩和ケア	4	4.4%
看護大学・専門学校看護教員	3	3.3%
人工透析	1	1.1%
その他	5	5.6%

その他の内容(各1名)

障がい者施設・青年海外協力隊・内視鏡・メーカー・イベント

最も経験の多い領域は、「病棟看護」で79名(87.8%)が経験をしており、次いで「外来看護」35名(38.9%)、「介護施設での看護(ケアマネ含む)」が29名(32.2%)であった。「新型コロナ関連の看護」は、この3年間で新たな領域であったが、21名(23.3%)が経験しており4番目に多かった。昨年とベスト4は変わりがなかった。5番目以降で昨年度と割合が1割以上差が生じた領域は、「健康管理」が5名(5.9%)から16名(17.8%)と増加していた。

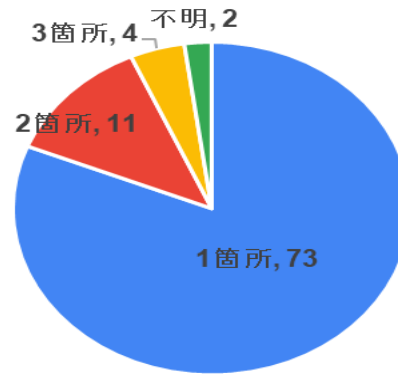


8.現在の就業先または最後に就業していた施設

① 就業施設数

	人数	割合
1箇所	73	81.1%
2箇所	11	12.2%
3箇所	4	4.4%
不明	2	2.2%
合計	90	100.0%

勤務施設数は、1箇所の方が最も多く73名(81.1%)であった。
15名(16.6%)の方は複数の施設での就労をしていた。

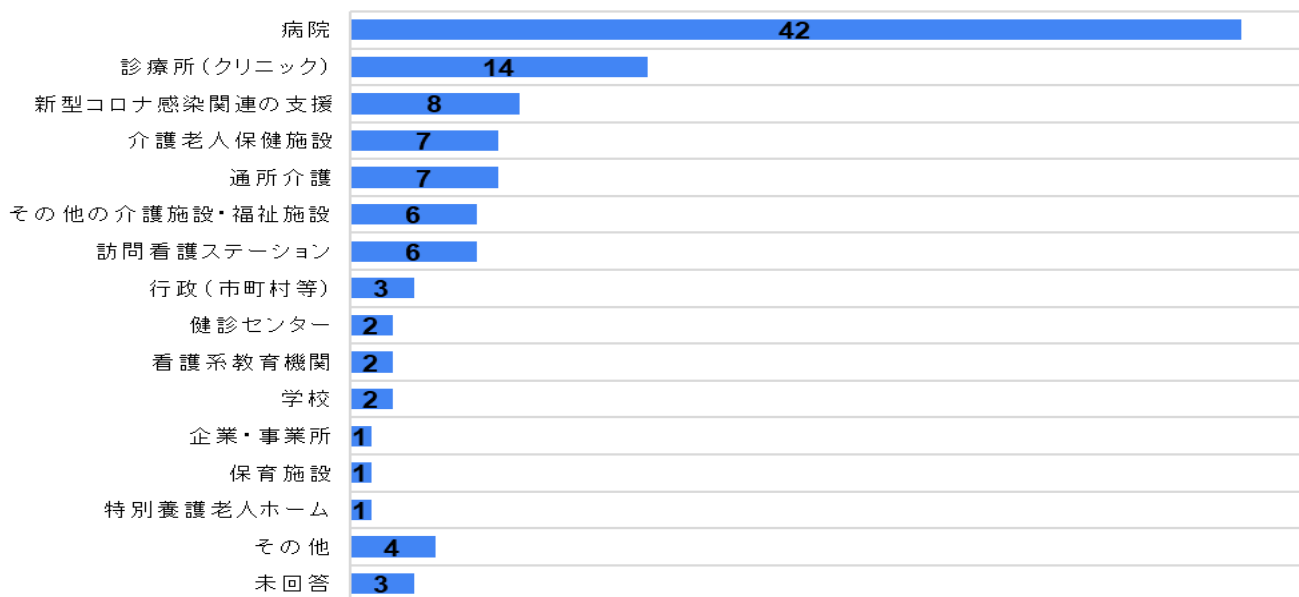


② 現在または最後の就業先(n=90)

就業先	人数	割合
病院	42	46.7%
診療所(クリニック)	14	15.6%
新型コロナ感染関連の支援	8	8.9%
介護老人保健施設	7	7.8%
通所介護	7	7.8%
その他の介護施設・福祉施設	6	6.7%
訪問看護ステーション	6	6.7%
行政(市町村等)	3	3.3%
健診センター	2	2.2%
看護系教育機関	2	2.2%
学校	2	2.2%
企業・事業所	1	1.1%
保育施設	1	1.1%
特別養護老人ホーム	1	1.1%
その他	4	4.4%
未回答	3	3.3%

現在の就業先または最後に就業していた施設については、「病院」が最も多く42名(46.7%)であった。次いで「診療所(クリニック)」14名(15.6%)、3番目は「新型コロナ感染関連の支援」8名(8.9%)であった。昨年と同様な順番であった。
昨年は4番目に多かった「行政(市町村等)」8名(9.4%)は、今年度は3名(3.3%)と減少した。

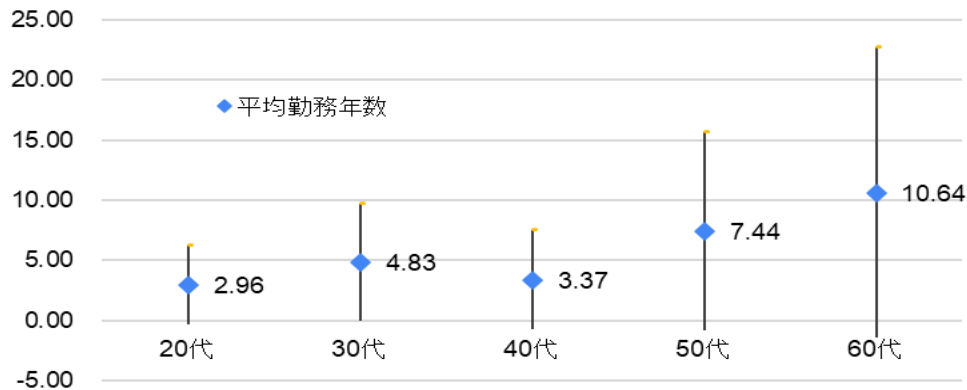
その他(各1名):医療職ではない・派遣・障がい者施設・訪問入浴



9.最後の就業施設の年代別勤務経験年数

	平均勤務年数	標準偏差
20代	2.96	3.27
30代	4.83	4.87
40代	3.37	4.12
50代	7.44	8.24
60代	10.64	12.12

未回答4名



最後の就業場所での看護経験年数は、ばらつき幅がかなり大きい結果となった。短い方は1ヶ月、最長30年以上までの開きがあった。最もばらつき幅が大きいのは60歳代であり、定年退職後の働き方を検討している方が多いことが推察される。

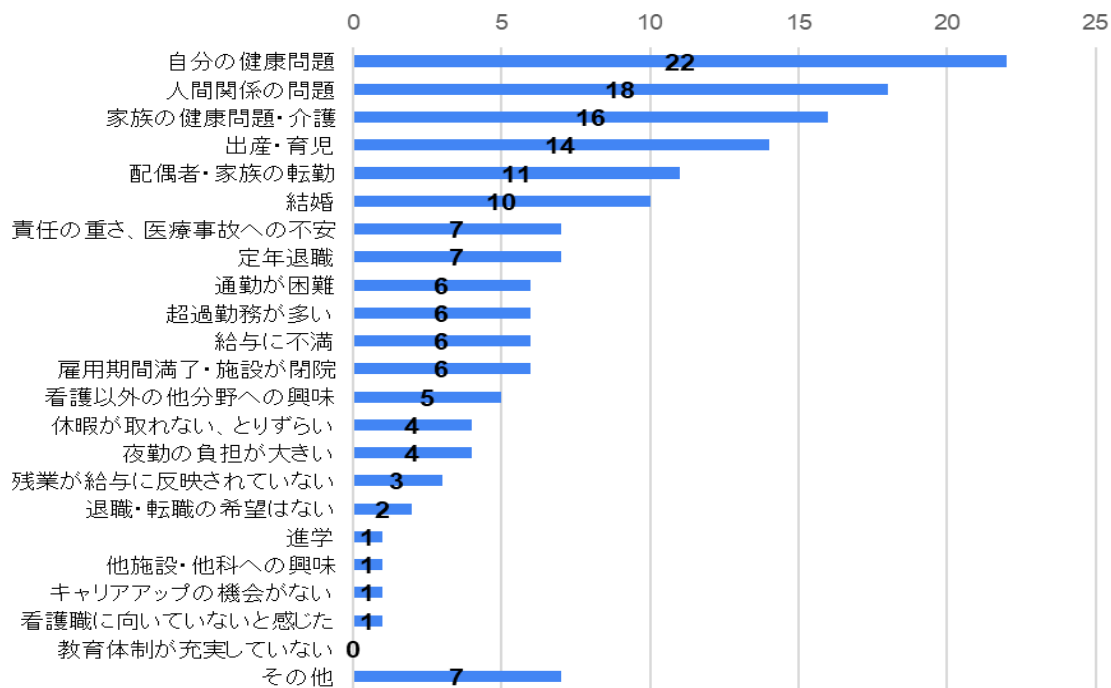
10.最後に就業していた施設の退職・転職を考えた理由(複数回答 n=90)

退職理由	人数	割合
自分の健康問題	22	24.4%
人間関係の問題	18	20.0%
家族の健康問題・介護	16	17.8%
出産・育児	14	15.6%
配偶者・家族の転勤	11	12.2%
結婚	10	11.1%
責任の重さ、医療事故への不安	7	7.8%
定年退職	7	7.8%
通勤が困難	6	6.7%
超過勤務が多い	6	6.7%
給与に不満	6	6.7%
雇用期間満了・施設が閉院	6	6.7%
看護以外の他分野への興味	5	5.6%
休暇が取れない、とりづらい	4	4.4%
夜勤の負担が大きい	4	4.4%
残業が給与に反映されていない	3	3.3%
退職・転職の希望はない	2	2.2%
進学	1	1.1%
他施設・他科への興味	1	1.1%
キャリアアップの機会がない	1	1.1%
看護職に向いていないと感じた	1	1.1%
教育体制が充実していない	0	0.0%
その他	7	7.8%

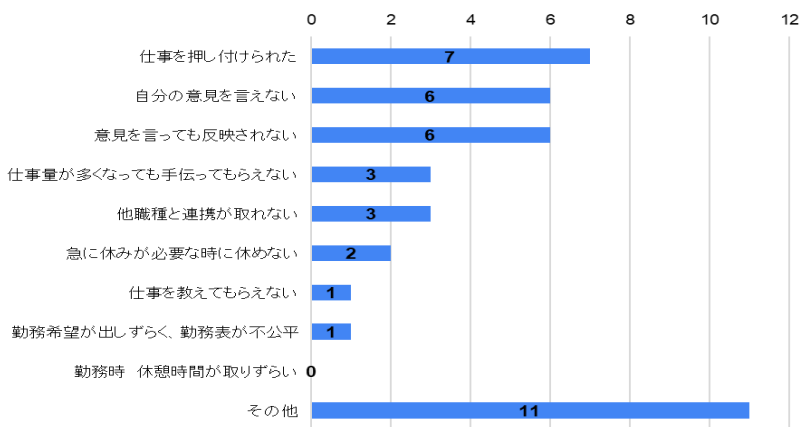
退職や転職を考える理由については、「自分の健康問題」を挙げた方が22名(24.4%)で、次いで「人間関係の問題」18名(20%)、「家族の健康問題・介護」16名(17.8%)、「出産・育児」14名(15.6%)となった。昨年度と比較し、割合が増加している退職理由は、「自分の健康問題」が12.9%から24.4%に、「人間関係の問題」が11.8%から20.0%に、「家族の健康問題・介護」が5.9%から17.8%に、「結婚」が5.9%から11.1%に、「責任の重さ・医療事故への不安」が1.2%から7.8%と増加していた。「出産・育児」は昨年度最も多い理由であったが、今年度は4番目となった。割合は12.9%から15.6%と増加している。(グラフは次ページに記載)

その他の理由

- ・保育園看護師で働きづらいため
- ・自身の転居
- ・自分の看護技術の不安さ
- ・妊活のため
- ・解雇
- ・仕事内容が辛かった
- ・管理者が怒鳴る。有休を制限される。パワハラ



11.前質問で人間関係と回答した内容(複数回答 n=18)



人間関係の具体的な内容については、「仕事を押し付けられた」、「自分の意見を言えない」、「意見を言っても反映されない」が多くを占めていたが、その他での回答も多く、様々な理由があった。

仕事を押し付けられた	7
自分の意見を言えなかった	6
意見を言っても反映されなかった	6
仕事量が多くなっても手伝ってもらえなかった	3
他職種と連携が取れない	3
急に休みが必要な時に休めなかった	2
仕事を教えてもらえなかった	1
勤務希望が出しづらく、勤務表が不公平であると感じた	1
勤務時 休憩時間が取りづらかった	0
その他	11

その他の内容(各1名)

- ・威圧的・嫌味
- ・家庭環境を無視した他施設への異動
- ・陰湿ないじめ
- ・いやがらせ 無視
- ・裏でいろいろ悪口を言われていた
- ・上司からのいじめ
- ・表と裏のある人間関係につかれた
- ・病気になってしまったが、周りの理解が得られなかった。

- ・6時間以上働いていたが、休憩がなかった。上司からのパワーハラスメント
- ・いやがらせをされる。管理者が怒鳴る。有休を制限される。パワハラ
- ・介護しながら働く環境整備がされておらず、勤務形態の免除を願い出ても、不可能であった。上司に自分の都合ばかり主張するなど言われ、やれないのか？やる気はあるのか？等と言われた。

12. 未就業の方の概ねの未就業期間(n=54)

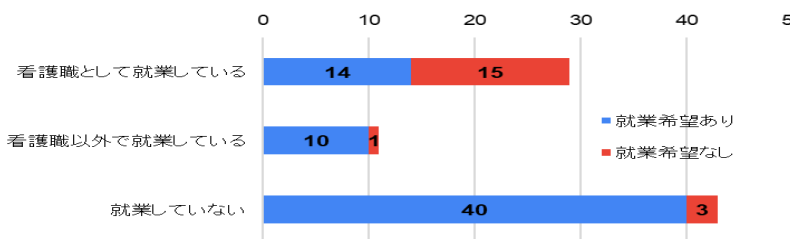
	回答者数	平均値	中央値	未回答者数
20代	1	2.33	2.33	3
30代	15	3.09	2.00	3
40代	9	5.53	3.25	3
50代	8	8.04	2.38	2
60代	7	1.19	1.33	2
未記載	0			1
合計	40	4.15	2.00	14

未就業期間については、平均4.15年、標準偏差5.76年で、期間が短くて1か月、最大28年であった。中央値が2年ということで、未就業期間の短い方が多いと言える。

13. 再就職希望について(未回答7名除く n=83)

	就業希望あり	就業希望なし	合計
看護職として就業している	14	15	29
看護職以外で就業している	10	1	11
就業していない	40	3	43
合計	64	19	83

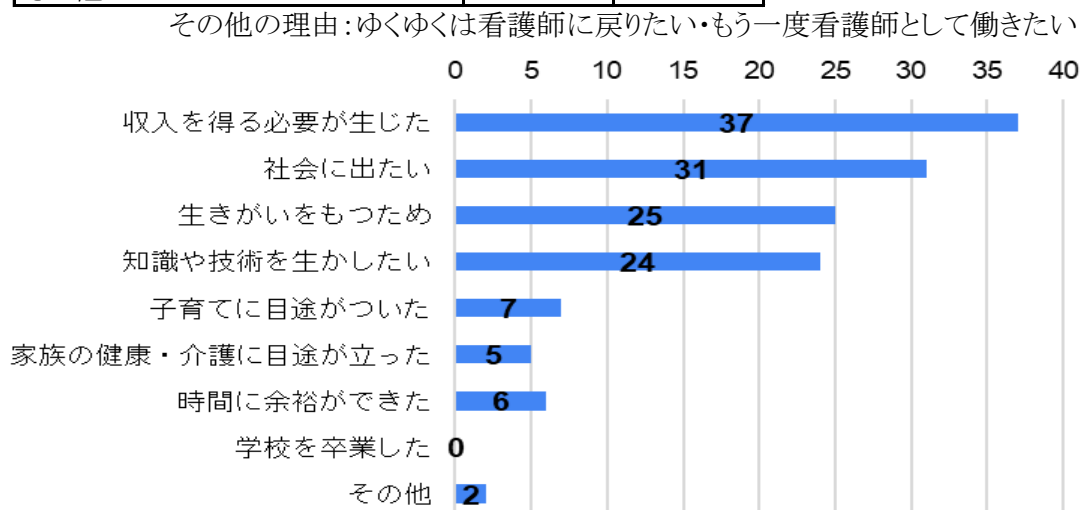
現在、看護職以外で就業している方11名中10名(90.9%)が再就業を希望しており、就業していない方43名中40名(93.02%)が再就業を希望していた。看護職として就業している方の約半分(48.3%)に転職希望があった。



14. 再就職を希望する理由(複数回答 n=64)

	人数	割合
収入を得る必要が生じた	37	57.8%
社会に出たい	31	48.4%
生きがいをもつため	25	39.1%
知識や技術を生かしたい	24	37.5%
子育てに目途がついた	7	10.9%
家族の健康・介護に目途が立った	5	7.8%
時間に余裕ができた	6	9.4%
学校を卒業した	0	0.0%
その他	2	3.1%

再就業を希望する理由については、「収入を得る必要が生じた」が最も多く37名(57.8%)であり、次いで「社会に出たい」31名(48.4%)、「生きがいをもつため」25名(39.1%)、「知識や技術を生かしたい」24名(37.5%)であった。



15.希望する再就業までの期間

再就業までの期間	人数
すでに再就業が決まっている	7
すぐにでも再就業したい	12
1年以内に再就業したい	19
数年後に再就業したい	8
学校卒業後再就業したい	0
未定	18
合計	64

数年後:1-2年 3名 ・ 2年後 5名

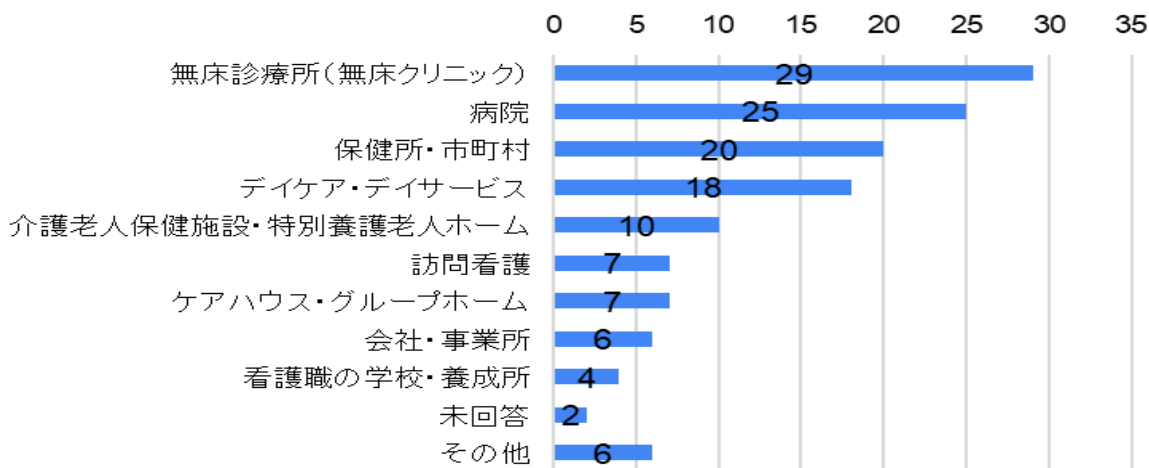
希望する再就業までの期間は、1年以内が最も多く19名(29.7%)次いで未定の方が18名(28.1%)すぐにでも再就業したい方が12名(18.8%)であった。数年後と回答された方は2年以内の就業を希望していた。

16.就業を希望する就業先(複数回答 n=64)

希望する勤務先	人数	割合
無床診療所(無床クリニック)	29	45.3%
病院	25	39.1%
保健所・市町村	20	31.3%
デイケア・デイサービス	18	28.1%
介護老人保健施設・特別養護老人ホーム	10	15.6%
訪問看護	7	10.9%
ケアハウス・グループホーム	7	10.9%
会社・事業所	6	9.4%
看護職の学校・養成所	4	6.3%
未回答	2	3.1%
その他	6	9.4%

就業希望が最も多かったのは、「無床診療所」で29名(45.3%)で、次いで「病院」25名(39.1%)、「保健所・市町村」20名(31.3%)、「デイケア・デイサービス」18名(28.1%)となった。

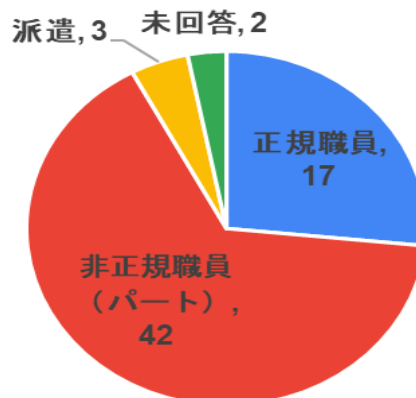
その他 特に考えていない
保育園・学校:2名
臨時
健診センター
障害児保育



17.希望する雇用形態(n=64)

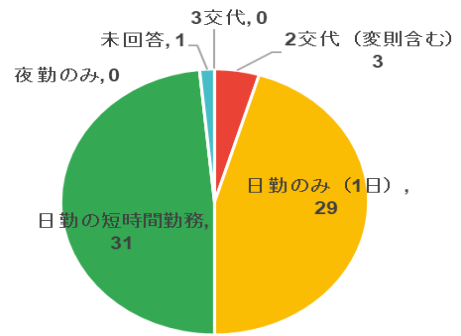
雇用形態	人数	割合
正規職員	17	26.6%
非正規職員(パート)	42	65.6%
派遣	3	4.7%
未回答	2	3.1%
合計	64	100.0%

希望する雇用形態は、「非正規職員(パート)」が最も多く42名(26.6%)で、次いで「正規職員」17名(26.6%)となった。



18. 希望する勤務形態 (n=64)

勤務形態	人数	割合
3交代	0	0.0%
2交代(変則含む)	3	4.7%
日勤のみ(1日)	29	45.3%
日勤の短時間勤務	31	48.4%
夜勤のみ	0	0.0%
未回答	1	1.6%
合計	64	100.0%

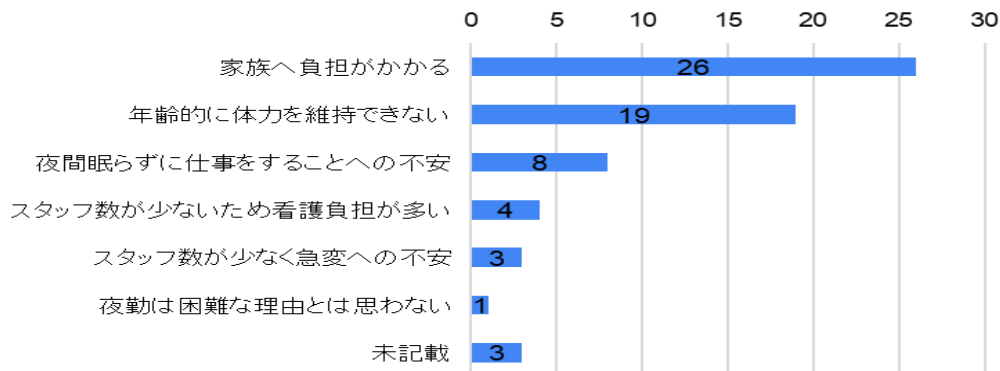


希望する勤務形態は、「日勤の短時間勤務」が最も多く31名(48.4%)で、次いで「日勤のみ(1日)29名(45.3%)」と約95%が日勤帯での勤務を希望していた。

19. 夜勤が困難な理由 (n=64)

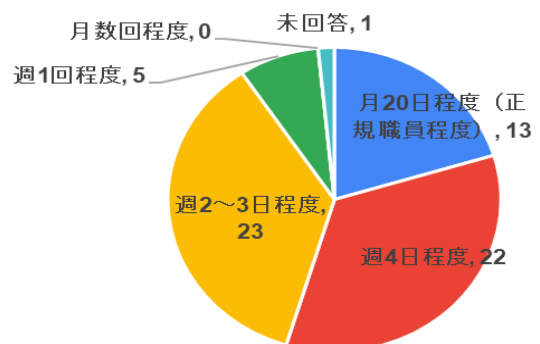
夜勤が困難な理由	人数	割合
家族への負担がかかる	26	40.6%
年齢的に体力を維持できない	19	29.7%
夜勤眠らずに仕事をする事への不安	8	12.5%
スタッフ数が少ないため看護負担が多い	4	6.3%
スタッフ数が少なく急変への不安	3	4.7%
夜勤は困難な理由とは思わない	1	1.6%
未記載	3	4.7%

夜勤が困難な理由について、最も多い理由は「家族へ負担がかかる」で26名(40.6%)、次いで「年齢的に体力を維持できない」19名(29.7%)、「夜間眠らずに仕事をする事への不安」8名(12.5%)であった。「夜勤が困難な理由とは思わない」と回答された方は1名のみであった。



20. 希望する就業頻度 (n=64)

就業頻度	人数	割合
月20日程度(正規職員程度)	13	20.3%
週4日程度	22	34.4%
週2~3日程度	23	35.9%
週1回程度	5	7.8%
月数回程度	0	0.0%
未回答	1	1.6%

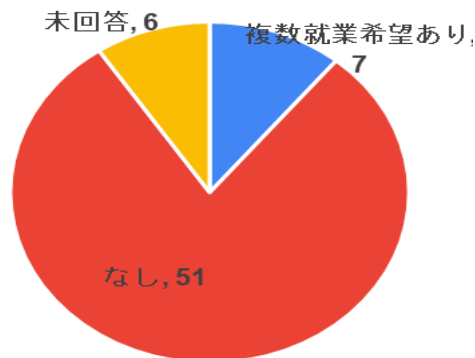


希望する就業頻度については、「週2~3日程度」が最も多く23名(35.9%)、次いで「週4日程度」22名(34.4%)で、「月20日程度(正規職員程度)」の就業を希望していたのは、13名(20.3%)であった。

21.複数就業の希望(n=64)

複数就業希望あり	7
なし	51
未回答	6

複数就業の希望については、51名(79.47%)が希望しておらず、希望しているのは7名(10.9%)であった。



21①.複数就業希望の理由

- ・収入を得たい(2名)
- ・いつ失業しても不思議でないため
- ・複数の自治体の業務を経験したい
- ・時間が空いているため
- ・いろいろな経験をしたい
- ・未記載

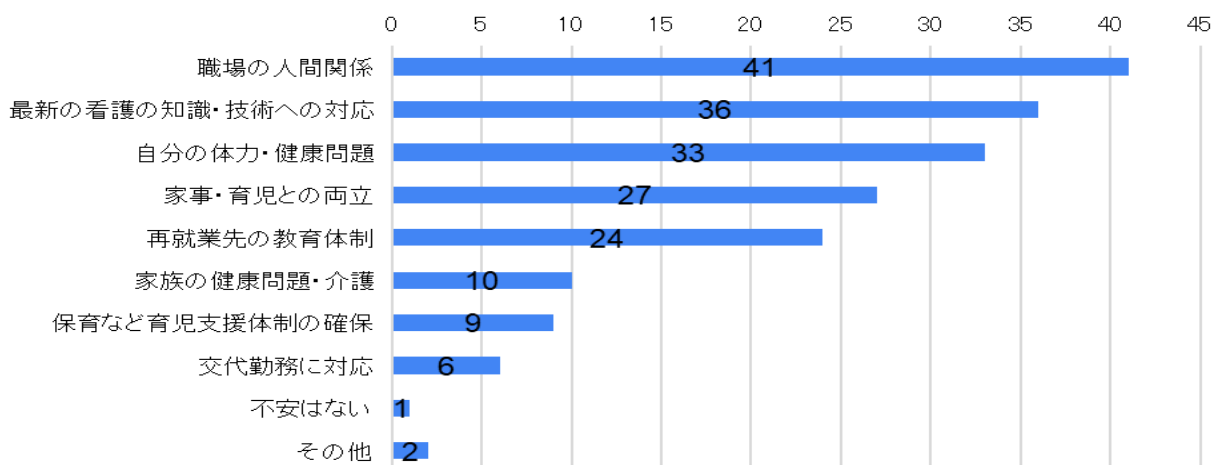
22.再就業に際しての不安(複数回答 n=63 未記載1名)

不安に思う内容	人数	割合
職場の人間関係	41	65.1%
最新の看護の知識・技術への対応	36	57.1%
自分の体力・健康問題	33	52.4%
家事・育児との両立	27	42.9%
再就業先の教育体制	24	38.1%
家族の健康問題・介護	10	15.9%
保育など育児支援体制の確保	9	14.3%
交代勤務に対応	6	9.5%
不安はない	1	1.6%
その他	2	3.2%

再就業に際しての不安について最も多かったのは、「職場の人間関係」で41名(65.1%)、次いで「最新の看護の知識・技術への不安」36名(57.1%)、「自分の体力・健康問題」33名(52.4%)、「家事と育児の両立」27名(42.9%)、「再就業先の教育体制」24名(38.1%)となった。「不安がない」と回答したのは1名であった。

その他の内容(各1名)

- 通勤距離等通勤状況
- 働きたい施設が見つかるか、採用してくれるか

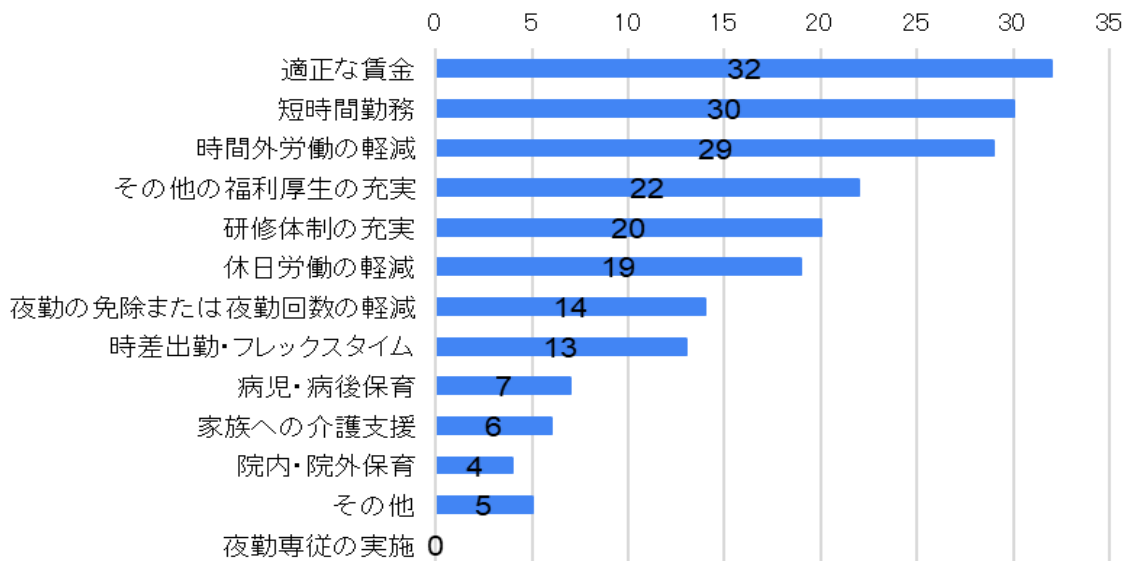


23.再就業する上で重視する支援体制(複数回答n=63 未記載1名)

支援体制の内容	人数	割合
適正な賃金	32	50.8%
短時間勤務	30	47.6%
時間外労働の軽減	29	46.0%
その他の福利厚生の実施	22	34.9%
研修体制の充実	20	31.7%
休日労働の軽減	19	30.2%
夜勤の免除または夜勤回数の軽減	14	22.2%
時差出勤・フレックスタイム	13	20.6%
病児・病後保育	7	11.1%
家族への介護支援	6	9.5%
院内・院外保育	4	6.3%
その他	5	7.9%
夜勤専従の実施	0	0.0%

再就業する上で重視する支援体制については、「適正な賃金」が最も多く32名(50.8%)、次いで「短時間勤務」30名(47.6%)、「時間外労働の軽減」29名(46.0%)、「その他の福利厚生の実施」22名(34.9%)、「研修体制の充実」20名(31.7%)であった。

その他の内容(各1名) 家庭の事情での休みの取りやすさ
子供の体調不良の時に休みがもらえる
フォローアップ体制
休日出勤手当の有無
特にありません

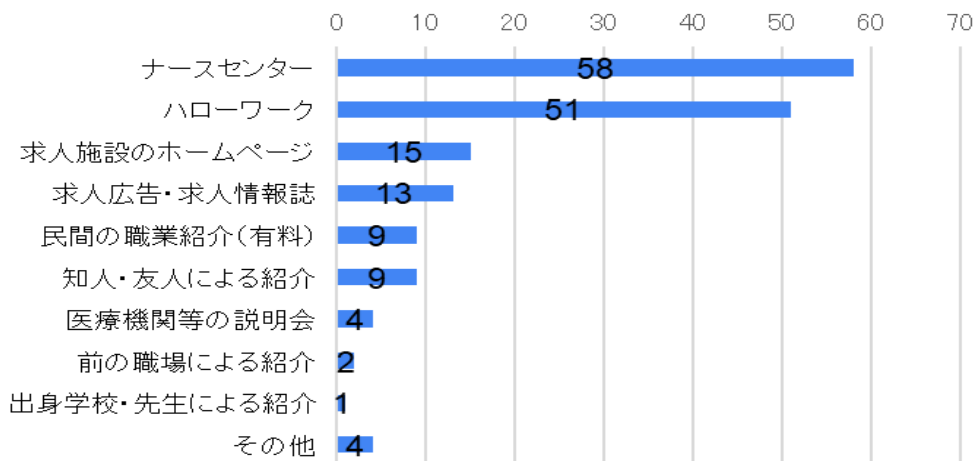


24.就業先を探す際に利用する手段(3つまで選択 n=62 2名未記載)

利用する手段	人数	割合
ナースセンター	58	93.5%
ハローワーク	51	82.3%
求人施設のホームページ	15	24.2%
求人広告・求人情報誌	13	21.0%
民間の職業紹介(有料)	9	14.5%
知人・友人による紹介	9	14.5%
医療機関等の説明会	4	6.5%
前の職場による紹介	2	3.2%
出身学校・先生による紹介	1	1.6%
その他	4	6.5%

就業先を探す際に利用している手段については、「ナースセンター」が最も多く58名(93.5%)で、次いで「ハローワーク」51名(82.3%)でこの2つの手段が多数を占めた。「求人施設のホームページ」は、15名(24.2%)、「求人広告・求人雑誌」が13名(21.0%)であった。(グラフは次ページに記載)

その他(各1名)
マイナビ看護
民間の無料紹介所
新聞他
インターネット求人サービス

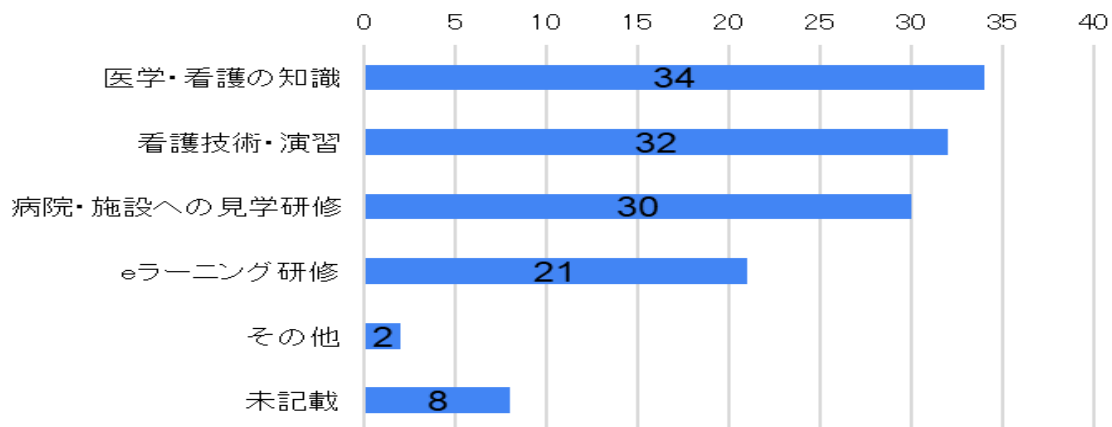


25.再就業にあたり受講したい研修について(複数回答 n=64)

医学・看護の知識	34	53.1%
看護技術・演習	32	50.0%
病院・施設への見学研修	30	46.9%
eラーニング研修	21	32.8%
その他	2	3.1%
未記載	8	12.5%

再就業にあたり受講したい研修については、「医学・看護の知識」が最も多く34名(53.1%)で、次いで「看護技術・演習」32名(50%)、「病院・施設への見学研修」30名(46.9%)、「eラーニング研修」21名32.8%)であった。

その他 特になし(2名)

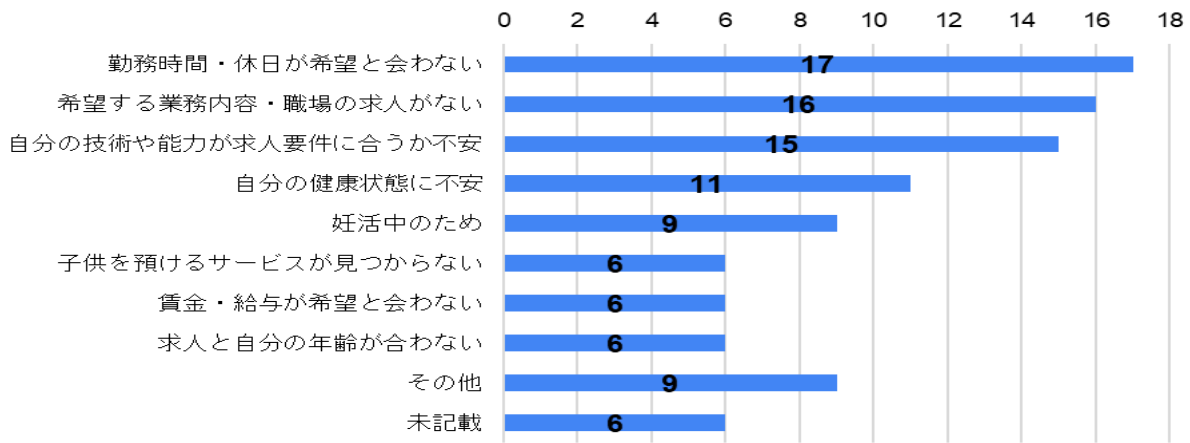


26.就職活動をしているが就業できない理由(複数回答 n=64)

勤務時間・休日が希望と合わない	17	26.6%
希望する業務内容・職場の求人がない	16	25.0%
自分の技術や能力が求人要件に合うか不安	15	23.4%
自分の健康状態に不安	11	17.2%
妊活中のため	9	14.1%
子供を預けるサービスが見つからない	6	9.4%
賃金・給与が希望と合わない	6	9.4%
求人と自分の年齢が合わない	6	9.4%
その他	9	14.1%
未記載	6	9.4%

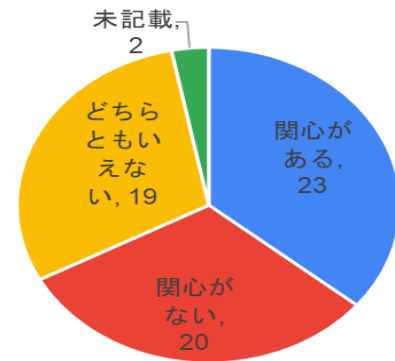
就職活動をしているが、就業できない理由については、「勤務時間・休日が希望と合わない」17名(26.6%)、次いで「希望する業務内容・職場の求人がない」16名(25%)、「自分の技術や能力が求人要件に合うか不安」15名(23.4%)であった。(グラフは次ページに記載)

- その他
- ・他の仕事をしているため(2名)
 - ・家族の体調が悪い
 - ・就職が決まっている
 - ・転居の日程が決められない
 - ・資格習得中のため
 - ・7月1日～就業しました。
 - ・転勤回数が多い
 - ・ブランクが長く、人と会うのが怖いので働けない



27. 訪問看護や介護施設への勤務に関心があるか (n=64)

関心がある	23	35.9%
関心がない	20	31.3%
どちらともいえない	19	29.7%
未記載	2	3.1%
合計	64	100.0%

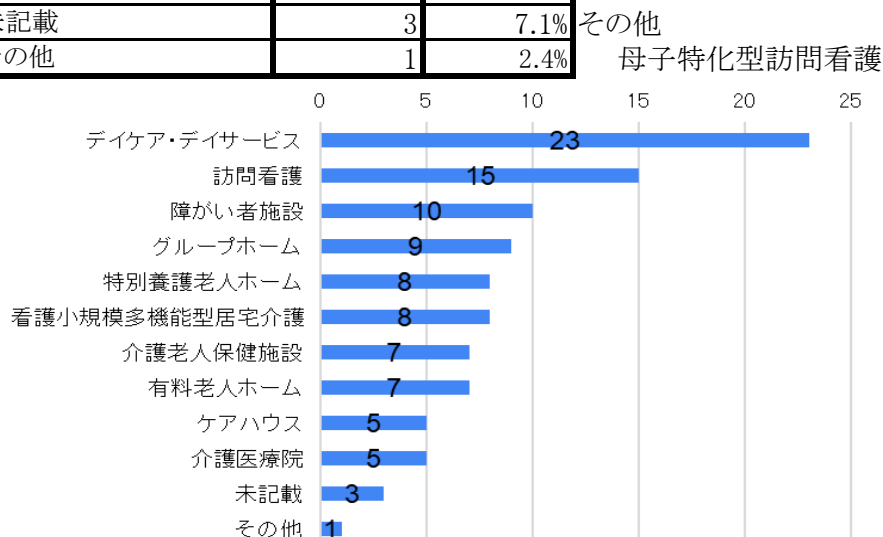


訪問看護や介護施設への勤務への関心については、「関心がある」23名(35.9%)、「関心がない」20名(31.3%)、「どちらともいえない」19名(29.7%)であった。

28. 27で関心がある、またはどちらともいえないと回答した方の希望する勤務場所について (複数回答 n=42)

勤務場所	人数	割合
デイケア・デイサービス	23	54.8%
訪問看護	15	35.7%
障がい者施設	10	23.8%
グループホーム	9	21.4%
特別養護老人ホーム	8	19.0%
看護小規模多機能型居宅介護	8	19.0%
介護老人保健施設	7	16.7%
有料老人ホーム	7	16.7%
ケアハウス	5	11.9%
介護医療院	5	11.9%
未記載	3	7.1%
その他	1	2.4%

最も関心のあった施設は、「デイケア・デイサービス」23名(54.8%)、次いで「訪問看護」15名(35.7%)、「障がい者施設」10名(23.8%)であった。



29.訪問看護への就業を困難にしていると思われる要因(複数回答 n=35)

困難と思われる要因	人数	割合
一人で観察し、判断することが不安	23	65.7%
自分の看護技術に自信がない	17	48.6%
急変時の対応が不安	15	42.9%
一人で処置をすることが不安	11	31.4%
拘束対応が不安	11	31.4%
車の運転に自信がない	10	28.6%
在宅に伺うことが不安	7	20.0%
医師との連携がとりにくいように感じる	7	20.0%
看取りへの看護が不安	6	17.1%
介護者への支援が不安	4	11.4%
地理的に地域の道がわからない	3	8.6%
病院に比べて賃金が安い	2	5.7%
その他	2	5.7%

訪問看護への就業を困難にしていると思われる要因については、35名の方より回答が得られ、最も多い要因は、「一人で観察し、判断することが不安」23名(65.7%)で、次いで「自分の看護技術に自信がない」17名(48.6%)、「急変時の対応が不安」15名(42.9%)となった。

その他(各1名):自分の体力・ハラスメント

